

2018_2_40_011 _

モディ政権とこれからのインド

研究会中間報告

堀本武功・三輪博樹 編

2019年3月

独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

調査研究報告書
地域研究センター 2018_2_40_011 _
「モディ政権とこれからのインド」研究会

はじめに

本研究は、2010年代における現代インドの変貌の解明を主たる目的としている。特に、モディ政権のもとでどのような変化が生じたのかを検証するほか、今後の変化も展望してみたい。

現代インドは1990年代以降、カースト対立、宗教対立、経済自由化、国際情勢の変貌などの要因によって大きな変化を見せ始めた。さらに、90年代から2000年代までと2010年代以降とは大きな差異がある。この差異は、インド人民党 (BJP) のモディ政権 (2014年～2019年) がもたらしたインドの内政 (社会を含む)、経済、外交における新政策とも密接に関わっている。

本研究は2年間の研究期間 (2018年度～2019年度を想定している。初年度においては、モディ政権が過去5年間に展開した内政、経済、外交の実態を検証することに重点を置いた。具体的には、各分野において見られた特に顕著な変化に関する主題を中心に研究作業を進め、大きなトレンドや実態的な変化を把握することに努めた。

今後、2年度目には、初年度の研究成果を2019年の総選挙の結果に突合させ、本研究の集大成を図り、「インドにおける変化の実態」を解明する。具体的にはまず、2019年4～5月に実施予定の連邦議会総選挙関連の分析を進める予定である。与党BJPと野党の公約や、各党の選挙戦の動向などを比較検討することにより、現代インドが直面する内政、経済、外交の諸課題について、インドの国民や各政党がどのように認識してきたかを解明する。

さらに、選挙結果の検討を通して、与党BJPの勝因または敗因、BJPが5年間の任期中に進めた諸政策に対して、インド国民がどのように評価したのかを読み解く。加えて、新政権—BJP政権の継続か非BJP政権の誕生—が発足してから最初の100日間程度の政策動向も検討する。

本研究会は、インドの政治、経済、外交に関して研究経験豊富な研究者から構成されている。それぞれの研究者が専門とするディシプリンに関する知見を相互に交換しながら、分かり易い形で現代インドの構造的な分析の提供に努めている。本調査研究報告書 (中間報告) は、各委員が担当するテーマについて最終的な成果を執筆するためにおこなった初年度における基礎的な作業の成果である。

2019年3月

編 者

目次

第1章	モディ政権下における政党政治—「一党優位」の復活か連合政治の新段階か—	佐藤 宏	1
第2章	インドにおける政党政治・選挙政治とモディ政権の登場	三輪 博樹	43
第3章	モディ政権の経済政策：その展開と評価	小島 眞	63
第4章	全国農村雇用保証法（NREGA）の政治経済学	湊 一樹	80
第5章	モディ外交の評価と今後の展望	堀本 武功	94
第6章	インドの国際関係研究・外交政策研究の理論化—意識的ディシプリン化	伊豆山 真理	112
第7章	India's Forays into the Indo-Pacific: Embracing Ambiguity through Strategic Autonomy	Nidhi Prasad	123

執筆者一覧(*は編者)
(執筆順、所属等は2019年3月現在)

さとう ひろし
佐藤 宏

南アジア研究者

みわ ひろき
三輪 博樹*

帝京大学法学部准教授

こじま まこと
小島 眞

拓殖大学名誉教授

みなと かずき
湊 一樹

アジア経済研究所地域研究センター

ほりもと たけのり
堀本 武功*

岐阜女子大学客員教授

いずやま まり
伊豆山 真理

防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室長

に で い ぷらさーど
Nidhi Prasad

青山学院大学博士課程

調査研究報告書
地域研究センター2018_2_40_011 _
「モディ政権とこれからのインド」研究会

2019年3月発行

発行所 独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2
